



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.17

新型コロナウイルス感染症によって、2020年1月～6月の結核の患者報告数が前年比13%減になったと結核研究所が発表しました（8月24日）。婦人会では、結核予防週間（9月24日～30日）を前に普及活動の調整を進めています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

〈岡山県結核予防会・岡山県愛育委員連合会・岡山市愛育委員協議会〉

愛育委員は各地域でマスク作成やマスク型の普及活動に努めました。

愛育委員がマスク生地を持ち寄り、手作りマスクを作成し、妊婦さんや小中学校に寄贈したり、自治体が提供するマスクの型紙を地域の皆さんに普及したりするお手伝いをしました（写真1）。

また、地域でマスクを必要とする1200人の声を市に届け、布マスク2400枚を配布するお手伝いをしたり、役場まで取りに来られない方に代わって、愛育委員が個別訪問してお渡ししたりしました（写真2）。



写真1 手作りマスクの配布（倉敷市玉島地区提供）

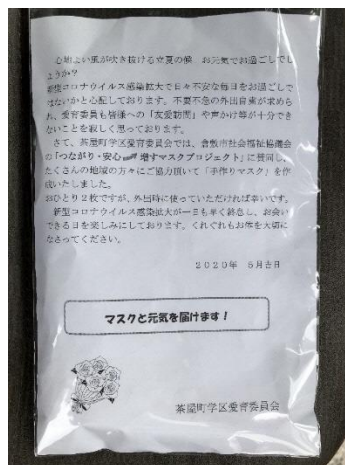


写真2 個別訪問で布マスクを手渡し（倉敷市倉敷地区提供）

なお、布マスクの配布の際には、地域の高齢者に手紙を添えて、感染予防の大切さを伝えることも忘れませんでした。

また、自治体作成の新型コロナウイルス感染症予防に関するリーフレットと一緒に検診の案内を渡しました。外出を控え感染予防をすることは大切ですが、検診受診は不要不急に当たらないことも説明できました。

さらに、個別訪問を回避したいと考える地域住民もいらっしゃることから、ケーブルテレビなどの媒体を活用し、愛育委員がモデルになって手洗いの重要性を映像にまとめたり、感染予防対策のポイントを紹介したりしました。

愛育委員の定例会では、保健所保健師を講師に招き、新型コロナウイルス感染症の勉強会を実施したりしました（資料1）。



資料1 岡山市西学区愛育委員会の定例会の報告 (ホームページに掲載されています)

<https://townweb.e-okayamacity.jp/c-nishi-r/2020/07/08/aiiku-1637/>

マスク作りは、手に入りにくい状況が続いていたとき、自分たちができることがないかということで、子どもたちの感染予防と働く母親の負担軽減を念頭に、すぐに作成が開始されました。今後も今できることを一つずつ取り組んでいきたいと考えています。